

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：27020

学校名：平和小学校

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	○前回の記録と同程度、もしくは上回った種目 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳び、ソフトボール投げ	○前回の記録より下回った種目 50m走
体力・運動能力 <女子>	○前回の記録と同程度、もしくは上回った種目 上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン、立ち幅跳び	○前回の記録より下回った種目 握力、反復横跳び、50m走、ソフトボール投げ
運動・スポーツへの意識 運動習慣	「運動することが好き」と回答する子どもの割合 R6男子:75.8% 女子:63% R7男子:81% 女子:58.6% 「体育の授業は楽しい」と回答する子どもの割合 R6男子:66.7% 女子:67.4% R7男子:81% 女子:65.5%	・体育の授業を除く1週間の総運動時間が60分未満の「ほとんど運動しない」子どもの割合 R6男子:12.1% 女子:10.8% R7男子:4% 女子:18%

課題解決に向けて話し合いを充実した結果、できたり分かったりすることが増えた。互いのよさを認め、よりよい活動に向けて主体的に活動するようになった。

できるようになりたいという気持ちが強く、主体的な姿勢が見られた。記録に挑戦したり、友達と交流したりすることのよさに気が付いた。

スポーツを見ることよりも実際に自分で運動することが楽しいという回答が多く、体を動かすことを楽しんでいることが分かる。特に、自分ができるようになりたいという向上心が強い傾向がある。運動量の確保と運動技能の向上を意識した授業を推進していくことが大切である。

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実

具体的な取組

- 授業のねらいにつながる準備体操と運動量を確保した授業内容、運動技能の向上を実感する授業の充実
- 体育の授業での自己評価の充実と子ども一人一人の運動技能の向上
- 全校での「体カテスト」実施による持久力・筋力をつける運動の充実と運動に対する意識の向上
- 外部講師の積極的活用で、より質の高い授業をめざす

- 「なわ跳び週間」「長縄チャレンジ」
休み時間に短なわの技に挑戦し目標に向けて全校で取り組む。また、委員会活動で長縄大会を設け、学級で長なわに挑戦する。冬季期間に運動量が減少する時期にも体を動かす機会を確保する。
- 「てつぼう週間」「とびばこ週間」の設定による遊びの空間を保障する。実施時期を体育の学習と関連付けることでより効果的なものにする。

- 栄養教諭による健康な体をつくるための食に関する指導の充実
- 養護教諭による心身の安全を守るための性に関する指導の充実
- 外部講師による病気や薬物に関する健康教育の充実
- OSCによるストレス解消の授業の設定

家庭・地域との連携・協働

- オリンピックミュージアム見学とパラリンピアンによる講義(3年生)
- タグラグビー(4年生)
- 障がい者スポーツ体験(こだま)